

県民まちなみ緑化事業 第2期（平成23～27年度）の実績・効果等

1 第2期の主な制度変更

- ① 県民参画や公益性に応じた負担の観点から、個人・法人の補助率を変更（10/10→1/2）
- ② 広場やグラウンド等を芝生化する「ひろばの芝生化」のメニューを新設（H24～）
- ③ 住民団体の事業実施対象区域を概ね全域に拡大
（1期：市街化区域、用途地域が定められた区域、緑条例「まちの区域」→2期：都市計画区域全域、緑条例「まちの区域」「さとの区域」）

2 実績・特徴

- ① 住民団体の実施件数が増加（1期:621件→2期:818件）し、住民主体の参画と協働による緑化が一層推進された。
- ② 新設の「ひろばの芝生化」などにより芝生化面積が増加（1期：23ha→2期:31ha）、緑化面積全体も増加（1期:61ha→2期:65ha）
※第2期目標：60ha/5年
- ③ 中・西播磨、但馬、丹波、淡路地域の実施件数が増加（1期:273件→2期:444件）し、県民参画による緑化活動が全県に広がった。

3 評価・検証

花緑検討小委員会において事業の評価・検証を行い、第1期と同様の環境、景観、防災面などの緑が本来持つ公益的な効果に加え、第2期では住民団体の実施件数の増加などにより、コミュニティ形成、地域核の再生、教育環境の向上などの緑の活用による波及的効果を確認することができた。

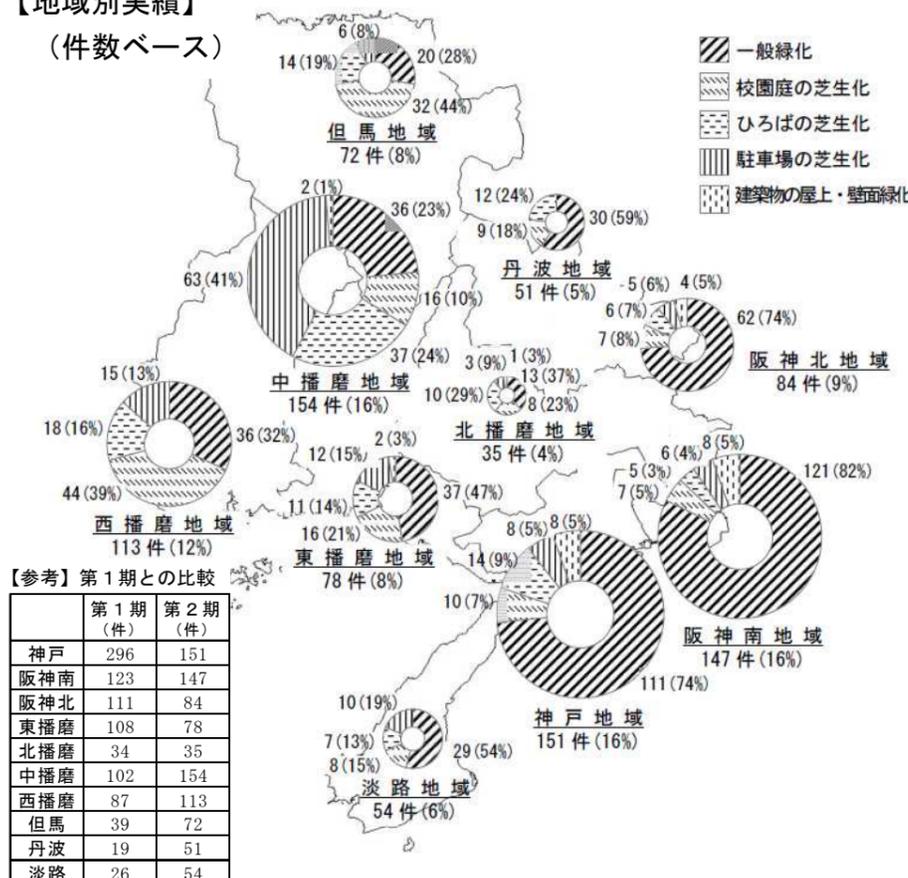
【花緑検討小委員会】（委員長：兵庫県立大学 平田富士男教授）
計5回開催（H26.6～28.3）

【年度別実績】

	第1期 小計	第2期						合計
		H23	H24	H25	H26	H27	小計	
件数(件) 【うち住民団体】	945 【621】	91 【60】	144 【119】	216 【187】	245 【222】	243 【230】	939 【818】	1,884 【1,439】
一般緑化	476 (50%)	39 (43%)	72 (50%)	131 (61%)	124 (51%)	129 (53%)	495 (53%)	971 (52%)
校園庭の芝生化	174 (18%)	26 (29%)	39 (27%)	30 (14%)	33 (13%)	29 (12%)	157 (17%)	331 (18%)
ひろばの芝生化	—	—	14 (10%)	27 (13%)	42 (17%)	51 (21%)	134 (14%)	134 (7%)
駐車場の芝生化	239 (25%)	15 (16%)	13 (9%)	25 (12%)	42 (17%)	33 (14%)	128 (14%)	367 (19%)
屋上・壁面緑化	56 (6%)	11 (12%)	6 (4%)	3 (1%)	4 (2%)	1 (0%)	25 (3%)	81 (4%)
事業費(百万円)	2,628	212	316	510	618	578	2,235	4,863
植樹本数	362千本	25千本	49千本	96千本	75千本	69千本	314千本	676千本
芝生化面積	23 ha	5 ha	7 ha	6 ha	8 ha	6 ha	31 ha	54 ha
緑化面積	61 ha	7 ha	11 ha	16 ha	17 ha	14 ha	65 ha	126 ha

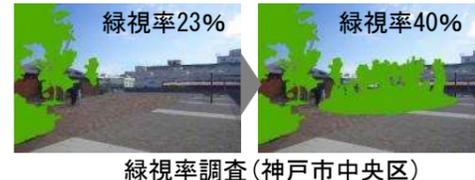
【地域別実績】

(件数ベース)



① 緑が本来持つ公益的な効果

環境効果	ヒートアイランド現象緩和効果 ・屋上緑化箇所の表面温度が約25℃低下*1、緑陰内の暑さ指数が平均2℃低下*2、芝生箇所で夏場に涼しさを実感約70%*3 二酸化炭素低減効果 ・31万本の植樹により年間約1,810トンの二酸化炭素を吸収（ガスタンク約70基、公園約170ha分の吸収量に相当） その他、防塵、大気浄化、騒音防止効果など
景観効果	景観向上効果 ・緑視率上昇による景観の質の向上 ・事業箇所の景観向上を実感する割合81%*3
防災効果	都市の水害発生リスク低減効果 ・地表面の緑化により雨水等の浸透面積が約63ha、浸透容量が30,468m ³ /h（25mプール84杯分）増加 樹木による延焼防止効果 ・火災時に安全に避難できる幅約3.5mの避難路が約3.7km増加 その他、建築物倒壊防止、落下物飛散防止効果など



② 緑の活用による波及的な効果

コミュニティ形成効果	・自治会、老人クラブ、学校、幼稚園等の地域住民間の交流機会の創出、地域活性化 自治会による植樹イベント
地域核の再生	・地域固有の緑の復活や歴史的名所における緑の保全に寄与
教育環境向上効果	・校園庭芝生化による児童の怪我の減少を実感62%*3 ・夏場の涼しさを実感69%*3 ・防塵効果を実感63%*3 裸足で校庭を走る様子
環境学習効果	・緑を通じた自然学習・体験学習ができる場の創出 生徒自らが芝張り
心理的効果	・リラックスや疲労感を和らげる効果、精神的ストレスの解消 ・緑に対して心理的な効果を期待する割合56%*4
その他	・鳥や昆虫の増加、在来種植栽の推奨など生物多様性に配慮、緑地での運動、園芸活動による健康増進に寄与

※1：サーモグラフィ調査 ※2：暑さ指数調査（熱中症予防を目的とする指標。①湿度②日射・輻射など周辺の熱環境③気温の3つの要素から暑さを表す）
 ※3：緑化箇所の利用者、管理者等へのアンケート調査 ※4：H26年度第2回県民モニター調査（アンケート調査）

支援事例① 地域ゆかりのオリーブを使ったまちづくり（神戸市）

- 1 概要
明治時代、北野地域に日本で最初に設立された国営オリーブ園にちなんでオリーブをまちづくりに生かそうと、住民や商店主などで作る団体が、街なかにおリーブ約100本を植樹。地域の高校生も授業の一環として維持管理に協力している。神戸とおリーブのゆかりを示す表示板を設置し、団体メンバーである学識者の講演も開催。将来的におリーブ園の再興を目指す動きも生まれている。
- 2 効果
 - 美しい景観づくりにとどまらない、地域の歴史を核とした新たなまちづくり活動
 - 住民と高校生との維持管理活動を通じた交流



支援事例② 全校園庭芝生化への取組（豊岡市）

- 1 概要
豊岡市では子どもたちの心身の発育向上、環境に優しい学校づくり、地域と学校のつながりの強化を目指し、市内の全幼稚園・小学校の校園庭芝生化に取り組んでいる。市も芝のポット苗を支給し、平成27年度末までに42校園に当事業が活用された。
- 2 効果
 - グラウンドでの怪我の減少、夏場の地面の温度の低下、砂埃の減少、昆虫や野鳥を見かけるようになった、地域の人が校園庭を利用する機会が増加

